

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Maternal hemoglobin levels and neonatal outcomes: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

母体ヘモグロビン値と新生児予後の関連

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine

年: 2022 DOI: 10.1080/14767058.2022.2130237

筆頭著者名: 郷 勇人

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

本研究では、妊婦の第 1 三半期と第 2 三半期におけるヘモグロビン値が出生児のアウトカム(早産、低出生体重児、small for gestational age)に及ぼす影響について調べることを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者の妊婦を、ヘモグロビン値を測定した時期(第 1 三半期と第 2 三半期)ごとにヘモグロビン値により5群(Group 1, Hb<9; Group 2, 9≤Hb<11.0; Group 3, 11.0≤Hb<13.0; Group 4, 13.0<Hb<14.0; and Group 5, 14.0≤Hb)に分け、多変量解析を用いて、妊婦のヘモグロビン値が早産、低出生体重児、small for gestational age の関連について検討した。

結果:

欠損値があるデータなど 29,673 組の母子のデータを除外し、74,392 組の母子を対象とした。第 1 三半期に測定した妊婦においては、G3 群に比べて、G1 群で、早産と低出生体重児のリスクが増加した。第 2 三半期に測定した妊婦では、G3 群に比べて、G5 群で、低出生体重児と早産のリスクが増加した。

考察(研究の限界を含める):

第 2 三半期における、高いヘモグロビン値は、早産や低出生体重児のリスクと関連することが示唆された。研究の限界点として、第 3 三半期に測定した妊婦のヘモグロビン値を検討していないことが挙げられる。

結論:

本研究の結果から、ヘモグロビン値の高い妊婦は、出産前から潜在的な出産時合併症について注意する必要がある可能性が示唆された。